

ISOM Japan NEWS Letter

国際東洋医学会 第31回定期理事会（ソウル）報告



前列右から3人目が、新理事長になられた 林 昭庚 先生。

国際東洋医学会（International Society of Oriental Medicine, ISOM）第31回定期理事会が、2017年6月17日（土）に韓国・ソウルの韓医師会館のISOM本部で開催されました。日本からは、中田 敬吾 会長、元雄 良治 日本支部長、牧野 利明 日本支部事務局長をはじめ、大野 修嗣、吉富 誠、山下 仁の各国際理事と、安井 廣迪 国際理事の代理として、津谷 喜一郎 前日本支部事務局長が出席しました。

この会議での大きな議題は2つで、次回の第19回学術総会（International Congress of Oriental Medicine, ICOM）の開催地と、任期が過ぎていて本当は交代していなければならなかった中田 敬吾 ISOM 会長の後任人事でした。

前回、第18回 ICOM（沖縄国際会議場、2016年4月16～17日）の時に開催した第30回理事会では、次回 ICOM 開催地として香港の Chan Y. K. Abraham 理事が香港での開催を主張、韓国は賛成したのですが、台湾からは、香港と現在の中国大陸との政治的な関係では、香港で開催したときに「台湾」と名乗って参加することが困難となることから、また日本からは中国が主体となっている世界中医学学会联合会（World Federation of Chines Medicine Societies, WFCMS）の世界戦略や国際標準化機構（ISO）TC249での動きを考慮したとき、香港での開催によりその関係者が学術総会に大挙して参加し、ISOMの独立が危ぶまれることを懸念することから、それぞれ反対を表明し、結論が先送りされていました。

今回の理事会でも、韓国側からは香港での開催を望む意見が出ましたが、香港の Chan 理事は欠席であり、反対意見が多いときは辞退してもかまわないとの意見を事前に事務局に伝えていたこと、台湾から台湾で開催したいとの強い要望があり、日本が台湾の意見に賛同したことから、最終的には次回の第19回 ICOM は台

湾で開催することが決定しました。その後、台湾側から 2018 年 11 月 24 日（土）～26 日（月）での開催を予定している旨の連絡が ISOM 日本事務局にありました。

次に、中田 敬吾 会長先生の後任人事として、台湾から林 昭庚（Lin Jaung-Geng）中国医薬大学教授・台湾中醫師公会全国連合会名誉理事長を推薦する意見が出て、全会一致で決定しました。規約上の任期は 2 年で、2019 年 6 月までとなります。

その他は、定款の改定、ISOM の Web ページの改定などを決議し、理事会を終えました。

第 19 回 国際東洋医学会 学術総会（台湾）開催予告

第 19 回 ICOM（台湾 2018）の準備状況を林亘信先生からの資料に基づいてお知らせします。

1. これまでの準備会議議事と進捗

- '17 年 8 月 6 日 第 1 回準備会議：大会テーマ、日程、会場、予算について。準備委員会の設立。
- 10 月 29 日 第 2 回準備会議：準備委員会メンバー、作業チーム編成、日程、会場およびテーマの確認。議事日程、インターネットおよび参加登録代行業者入札案、収支見積について。
- 10 月 29 日 第 3 回準備会議：作業チーム責任者および業務内容、国内外参加登録費と支払方法の決定。
- 12 月 10 日 第 4 回準備会議：政府機関への経費補助申請。講演要旨投稿規定と各分野テーマの設定。学会分野別招聘者リストアップ。
- '18 年 1 月 14 日 第 5 回準備会議：招待講演者リストアップ。
- 2 月 11 日 第 6 回準備会議：招待講演者決定。各作業チーム進捗確認。会場内使用施設の確定。

2. 総会テーマ

The Application of Traditional Medicine in Acute and Critical Care — Prospects and Challenges
(救命救急における伝統医学の応用 — 展望と挑戦)

3. 会場と日程

台大医院国際会議センターは、国際会議を専門とした施設です。豊富な会場、広いスペース、充実した設備は様々な使用用途に適応することができますし、大人数を収容可能な大会場、会議室、展望室、レストランも備えています。会場周辺は、宿泊施設や交通機関とのアクセスが大変便利です。また、日程については、夏秋の台風の時期と関連の学会等を避けるように配慮しました。以上の判断から、第 19 回 ICOM の会場と日程を下記のように決定します。

会場：台大医院国際会議センター (<http://www.nthcc.com.tw>)
100 台北市中正區徐州路 2 號
Tel : (+886) 02-77240109 Fax : (+886) 02-77240107

日程：2018 年 11 月 24 日（土）～26 日（月）



4. ウェブサイトの開設：準備中

5. 口頭発表・ポスター発表、講演要旨・審査方法（審議中）

- (1) 講演要旨集およびポスター発表の編集フォーマットについて
- (2) 口頭発表のフォーマットと時間制限について
- (3) 参加申込について
- (4) 申込演題の諾否にあたる分野別レビューワーについて
- (5) 発表演題のセッション割り、日程および時間について
- (6) 申込演題の採択通知について



会員の皆様におかれましては積極的な参加をご検討願います。

林昭庚 ISOM 新理事長のご紹介

冒頭の記事の通り、国際東洋医学会理事長に林昭庚先生が新任されましたので、ご紹介いたします。

林先生は 1947 年生まれで、現在、中国医薬大学中医系専任教授、台湾中医医史文献学会理事長、中医師公会全国連合会名誉理事長、中華針灸医学会名誉理事長を兼任されています。また、これまでに総統府国策顧問、中医師公会全国総合会理事長、中華針灸医学会理事長、国立台湾大学医学院教授、中国医薬大学針灸研究センター主任、中国医薬大学中国医学研究所所長を歴任し、スペイン国立マドリード大学・オーストラリア国立ビクトリア大学・同国立ロイヤルメルボルン工科大学・広州中医薬大学等では客員教授をお務めです。台湾中医針灸医学の権威であり、「針刺安全深度の父」とも称される林先生は、『新針灸大成』、『針灸学新論』、『針刺穴位深度研究』、『中西医病名対照大辞典』、『新編彩図針灸学』、『日治時期的台湾中医』、『中医学史』等、50 余巻の著作がある他、国内外の学術雑誌にも 330 編を超える論文を発表しています。そして、台湾中医学の発展ならびに中医学を介した国際貢献に対し、サウジアラビア王国より金袍賞（1980 年）、エルサルバドル共和国より学術貢献賞（1990 年）、李登輝総統より伝統文化賞（1993 年）、「功著杏林」楯（2003 年）等が贈られています。



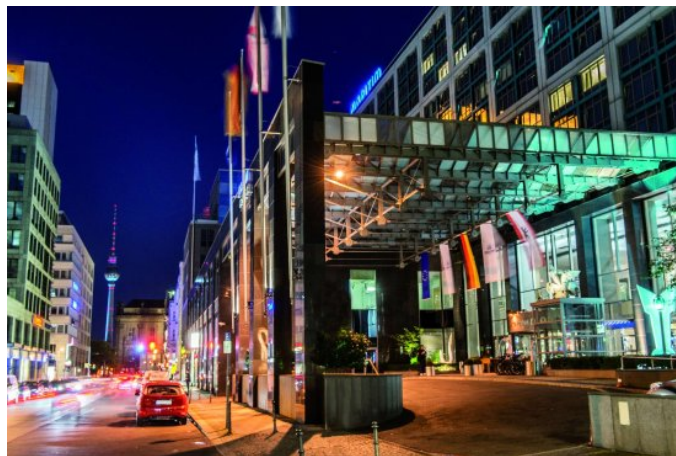
（中国医薬大学教員紹介より転用）

経験豊富な林理事長による円滑な ISOM の運営に期待が持たれます。

第 4 回 ISJKM（ベルリン）報告

2017 年 5 月 6 日（土）、ドイツのベルリンで第 4 回 ISJKM（国際日本漢方学会）が開かれました。会場となったマリティム プロアルテ ホテルは大きなホテルで、直前まで ICCMR（国際補完医療研究学会）が開かれており、ISJKM はそのサテライト・シンポジウムのような位置づけでもありました。

ISJKM の会頭は、ミュンヘン在住のライセンウェーバー先生です。先生は、ドイツで「日本学」をおさめ、ミュンヘン大学医学部を卒業し、日本の北里研究所附属東洋医学総合研究所で漢方医学を習得されたドクターで、ドイツにおける漢方医学研究の中心的存在です。



そのライセンウェーバー先生は、昨年の国際東洋医学会（ICOM18）での講演で、「日本の漢方医学は、中から見れば伝統医学だが、外から見れば統合医療である」と話されました。

日本の先生方は、日本がいかに優れた統合医療を行っているかということをご存じありません。中国や韓国は、西洋医学と伝統医学を別々の医療制度の下で行っています。大学の医学教育も病院での診療もすべて異なった二元的な医療制度下で実践されているのです。しかし、日本は、一元的医療制度をとっています。

日本の医師は、西洋医学を学び、診療でも西洋医学的治療を行います。そのうち、漢方医学を自分の医療に取り入れたいと考える医師も多く、それらの医師たちは、積極的に診療の中に漢方薬を取り入れています。この形が、世界に類のない統合医療となっているのです。

この学会は、統合医療としての漢方医学を研究する人たちが研究成果を発表する場です。

学会場には、ドイツ、イギリス、スペイン、イスラエル、アメリカ、ブラジル、などから約 80 人が参集し、活発な議論が行われました。

ISOM 日本支部理事長の元雄良治先生は、日本の医療用漢方製剤を英語で検索するシステム「STORK (Standards of Reporting Kampo Products)」を構築し、それを発表されました。このシステムにより、英語での発表が格段に楽になりました。日本の医療用漢方製剤の情報が 1 つのウェブサイトの引用で説明できます。論文著者にとっては、書き方が統一され、余分な情報を記載する必要がなくなり、紙面の節約にもつながります。海外の読者や査読者にとっては、STORK を介して日本の漢方製剤の情報にアクセスできるようになります。STORK の使い方としては、たとえば、麦門冬湯であれば、bakumondoto, see <http://mpdb.nibiohn.go.jp/stork> となります。これまでに STORK を用いた論文が 2 編出ています (Yanase T. *et al.*, *Traditional & Kampo Medicine* 2017 ; Takemoto H. *et al.*, *Biol. Pharm. Bull.* 41: 247-253, 2018)。今後、漢方製剤を使った臨床研究を論文で発表する際には、是非 STORK を引用して下さいようお願いいたします。



日本と似た形態の医療制度をとっているのがヨーロッパ諸国、特にドイツです。ISJKM も毎回ヨーロッパで行われます。前はウィーン、今回はベルリン、そして次回がゲッティンゲンの予定です。2019 年のゲッティンゲンでの再会を期し、記念撮影を行いました。

学会終了後は懇親会です。ベルリンの中心部にある大きなレストランで、食べきれないぐらいの豪華な食事が用意され、おしゃべりと音楽とダンスに興じ、楽しいひと時でした。



ISOM Japan ニュースレター 2017 No.2
発行日 2018 年 2 月 26 日
編集者 ニュースレター編集委員会
発行者 大山雅義
発行所 国際東洋医学会日本支部 (ISOM Japan)

国際東洋医学会日本支部 ISOM Japan

名古屋市瑞穂区田辺通 3-1
名古屋市立大学薬学部生薬学分野内

TEL&FAX 052-836-3416

Email: icom-japan@phar.nagoya-cu.ac.jp

ウェブサイト <http://isomjpn.umin.jp/>